

(裏)



[セリフ]

うさぎさん、ねこくん、ぶたくん、いぬくんはいつもなかよし。

「今日もいい天気だねえ」

「さあ、今日は何して遊ぼうか？」

「いつもの原っぱへ行こうよ！」

(裏)



[セリフ]

原っぱで遊んでいると、うさぎさんが向こうの山の方に、
おおきな雲を見つけました。

「見て、お山のほうに、あんなにもくもくした雲があるわよ。」

「ほんとうだ、おおきな雲だねえ。」

「あの雲の下では、雨が降っているのかもね。」

「ここにも、雨が降るのかなあ？」

「雲があるのは向こうのお山の方だから、こっちには雨は降らないよ、
きっと。」

(裏)



[セリフ]

「 そうだよね、こっちには雨は降らないよね。 」

「 ねえねえ、小川のほうに行って遊ぼうよ。 」

「 そうしよう、そうしよう。 」

そう言って、みんなが小川に沿って歩き始めたそのとき、
「 危ないから小川から離れてえ！ 」

そう言って駆けつけてきたのは、ものしりねずみくんです。

「 みんなぁ！ 小川のそばはあぶないよ！ 」

もうすぐたくさんのお水が流れて来るかもしれないよ！ 」

(裏)

[セリフ]

不思議に思ったうさぎさんはねずみくんに聞きました。
「どうしてここに、たくさんの水が流れてくるの？
こっちはこんなにいいお天気なのよ。」



ねこくんも不思議に思いました。
「そうだよ、ねずみくん。雨が降っているのは、
大きなもくもくした雲がある向こうのお山の方だけだよ。」

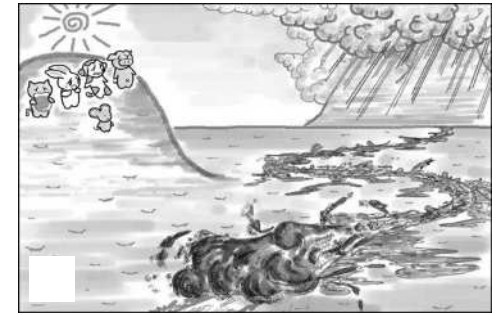
それでも、ねずみくんは
「だめだめ、もうすぐこの小川にたくさんの水が流れてくるよ。
とても危ないから、みんな小川から離れてえ！
はやく、向こうの丘の上に逃げてえ！」

みんなは、なんだか、信じられませんでした。
ねずみくんの言うことをきいて、みんなで丘の上に逃げることにしました。

すると間もなく・・・

(裏)

[セリフ]



遠くの方から、ごうごうという低い音が聞こえてきました。

小川を見ると、茶色く濁ったたくさんの水が、すごい勢いで流れてきました。

「見て！　すごい水の流れだ！」

「小川からあんなにたくさん水があふれているよ！」

水の流れはみんなの目の前を、
ドドドドオオというものすごい勢いと速さで流れていきます。

これを見て、いぬくんは、

「うわあ、あのとき小川から逃げなかったら、
ぼくたちあの水に流されちゃうところだったよ。」

みんなも、いぬくんと同じように思って、怖くなりました。

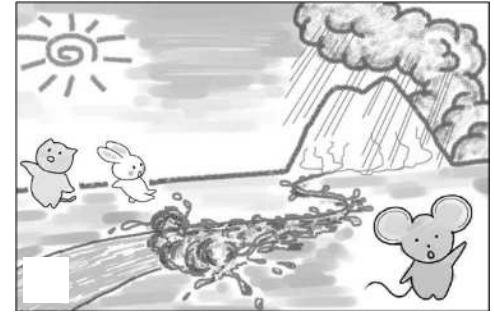
「ところで、どうしてねずみくんは、こうなることを知っていたんだい？」
ぶたくんが聞きました。

ねずみくんは教えてくれました。

制作・著作 国土交通省気象庁 仙台管区気象台

(裏)

[セリフ]



「あの、おおきなもくもくした雲は、
とてもたくさんの雨を一度に降らせる雲なんだ。
おおきなもくもくした雲がお山の方にあって、たくさん雨が降ると、
そのたくさんの雨が川を流れてきて、
今みたいにドドドってすごい勢いで流れて来ることがあるんだよ。」

「そうなの！？ たくさん降った雨が、川に集まると、
あんなにすごい勢いで水が流れて来るのね。」
うさぎさんはびっくりしました。

「ねずみくんは、遠くの山に大きなもくもくした雲があるのを見て、
山に降った雨が、小川にたくさん流れて来るから丘に逃げてって言ったんだね。」
いぬくんは、ねずみくんにすっかり感心しました。

みんな、ねずみくんの言うことをきいてよかったなあと思いました。

(裏)



[セリフ]

あれ？ なんだか薄暗くなってきました。

ふと頭の上を見上げると、
おおきなもくもく雲がみんなのいるところにも近づいてきたようです。

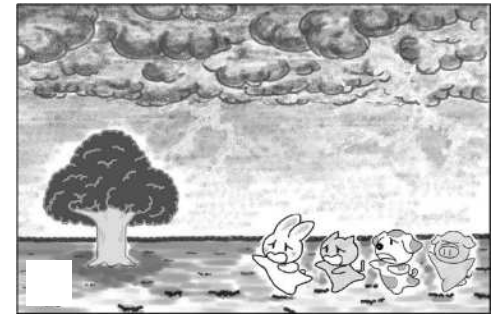
「うわぁ、もくもく雲がここまでやってきたよう。」

「うす黒くて、なんだかこわいよう。」

みんなが不安そうに空を見上げていると、
雲の中からゴロゴロと大きな音が聞こえてきました。

(裏)

[セリフ]



黒い雲の隙間からピカッと光る稲妻が見えました。

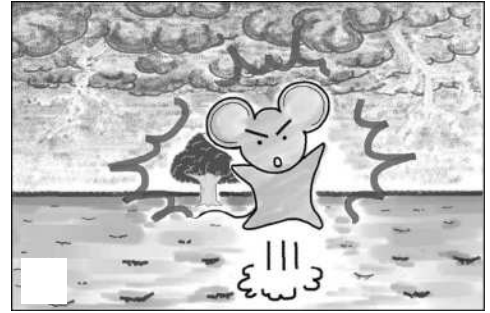
「かみなりだぁ！」
ゴロゴロという音もどんどん大きくなってきます。

みんなは怖くなって、原っぱに立つ1本の大きな木を目指して、
丘の上から逃げ出しました。

「あの木の下に隠れよう！」
「あの大きな木なら、雷を防いでくれそうだよね！」
「さあ、急ごう！」

みんなが木に向かって駆け出そうとしたその時です。

(裏)



[セリフ]

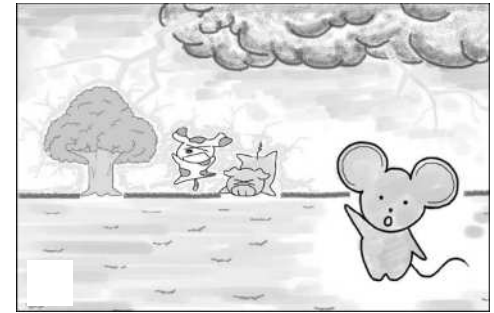
「だめえっ！ みんな、木の方へは行っちゃダメだよ！」

ねずみくんが、その小さな体いっぱいを使って、
みんなを通せんぼしたのです。

「だめだよ！ 高い木の下にいと、かえって雷にあたっちゃうんだ！」

一体、どういうことなのでしょう？

(裏)



[セリフ]

「高い木は、おおきなもくもくした雲に近いから、雷が落ちやすいんだ。だから高い木の下や近くにいと、木と一緒に雷に当たっちゃうかもしれないんだよ。」

これにも、みんなびっくりしました。

「大きな木は、雨や風を防いでくれるから、雷もきっと防いでくれると思っていたけれど、逆に危ないんだね。」

「じゃあ、どこに逃げればいいのか、ねずみくん？」

「雷が鳴っているときは、おうちの中が安全なんだ。」

そういと、ねずみくんたちは、一番近いくまさんのおうちに行くことにしました。

(裏)



[セリフ]

くまさんのおうちに着くと、
「やあ、ねずみくん、みんな、いらっしやい。」

「くまさん、こんにちは。
雷が止むまでおうちに入れてもらえませんか？」

「もちろんいいとも、さあ、みんな早く入って。」

こうして、みんなはくまさんのおうちに入れてもらいました。

(裏)

[セリフ]

みんながくまさんのおうちに入ると、間もなく雨が降り始めました。



いぬくんとぶたくんは、窓から外の様子を見ていました。

「ふう、こわかったねえ。」といぬくん。

「ぶう、こわかったねえ。」とぶたくん。

外は雨がどんどん強く降ってきて、雷もまだまだ鳴り続けています。
風も強くなってきて、まるで外は嵐のようです。

いぬくんが言いました。

「おおきなもくもくした雲が、たくさんの雨を降らせたり、雷を鳴らせたりする、
こんなに危ない雲だとは知らなかったよ。」

ぶたくんも、

「そうだよね。だけど、こうしておうちの中にいれば大丈夫だよね。」

そう言って、窓から外を眺めていました。

(裏)



[セリフ]

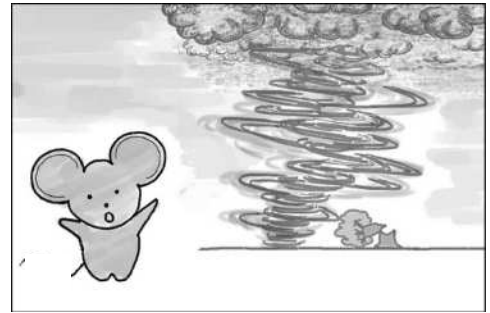
すると、そこへねずみくんがやってきて、二人に言いました。

「いぬくん、ぶたくん、窓から離れていた方がいいよ。」

またまた不思議に思いました。

「ねずみくん、どうして？ ここはおうちの中だから安全じゃないの？」

(裏)



[セリフ]

「大きなもくもく雲は、雨や雷のほかにも、
とっても強い風を吹かせることがあるんだ。

中でも一番強い風を「竜巻」っていうんだよ。

「竜巻」はぐるぐる渦を巻いて、おうちや木を倒したり、
車だって巻き上げて、あちこちに吹き飛ばしちゃうんだ。」

(裏)



[セリフ]

「竜巻が吹き飛ばしたものは、窓にぶつかって、ガラスが割れて、とっても危ないんだ。」

「そうかあー。だから、窓から離れていなくちゃいけないんだね。」

「そうなんだよ、いぬくん。
大きなもくもく雲が来たら窓には近づかないことと、
もしガラスが割れても飛び散らないように、
カーテンを閉めておくことも大事だよ。」

いぬくんとぶたくんは、早速、ねずみくんが教えてくれたとおり、
窓のカーテンを閉めました。
そして、みんなと一緒に、
窓から離れたおうちの真ん中の部屋に行くことにしました。

制作・著作 国土交通省気象庁 仙台管区気象台

(裏)



[セリフ]

みんなは窓から離れた、おうちの真ん中の部屋で、おはなしを始めました。

「おおきなもくもく雲は、大雨や雷、そして竜巻を連れてくる怖い雲なんだね。」

「おおきなもくもく雲は、遠くにあっても気をつけなきゃいけないんだね。」

「今日みたいに雨が降ってなくても、
川があふれることがあるなんて知らなかったわ。」

「ほんとだね、雷が鳴ったら、大きな木の下は危ないってこともね。」

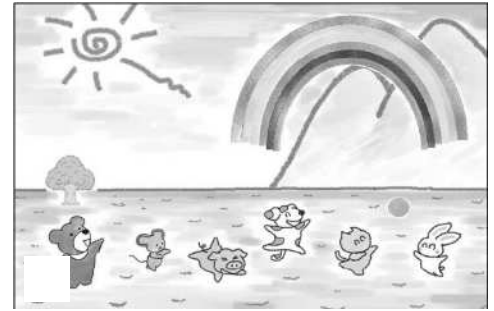
「早くもくもく雲がなくなって、またお天気にならないかなあ。」

「お天気になったら、今度は何して遊ぼうか？」

みんなで仲良くおしゃべりをしている間に、どうやら雷は止み、雨も上がったようです。

制作・著作 国土交通省気象庁 仙台管区気象台

(裏)



[セリフ]

黒くて大きなもくもく雲は、もうすっかり消えてなくなりました。

空にはお日様が戻ってきて、大きな虹がかかっています。

みんなは、原っぱでまた楽しく遊び始めました。

(裏)



[セリフ]

おしまい

(裏)



[セリフ]

『もくもくおおきなくも』